

命の尊さを伝える本(平成26年)

12月の推薦本

・「だいすきのしるし」 作:あらいえつこ 絵:おかだちあき(東京 岩崎書店)

おすすめコメント:圖の発表会を楽しみにしていたお姉ちゃんと弟。しかし弟が発熱して…不安な気持ちで迎える発表会にお母さんは最後に駆けつけます。

お姉ちゃんとお母さん 二人だけにわかる「だいすきのしるし」とは…

(蔵書:南図書館)

・「クリスマス人形のわがい」 著:ルーマー・ゴッテン 画:バーバラ・クーニー 訳:掛川恭子(東京 岩波書店)

おすすめコメント:クリスマス人形のホリー、施設で暮らす小さな女の子アイビー、子供のいないジョーンズさんのおくさん。

それぞれが自分の願いを強く心にいただくことで夢がかなう。心があたたかくなる現代のおとぎ話です。

「クリスマスの女の子―四つの人形のお話 1―」(訳:久慈美貴 ベネッセ)でも読むことができます。

(蔵書:中央図書館、北、南)

11月の推薦本

・「ピンクのれいぞうこ」 作・絵:ティム・イーガン 訳:まえざわあきえ(東京 ひさかたチャイルド)

おすすめコメント:ネスミのドスワースはガラクタおきぼでおんぼろの冷蔵庫を見つけます。

マグネットでとびらに止められた古ぼけた紙切れには<絵をかこう>中には絵の道具!さて次の日には…。

(蔵書:中央図書館、北、西、南)

・「おいしいね」 作・絵:吉村竹彦(東京 朝北社)

おすすめコメント:もしゃもしゃ♪家族揃って食べるおうちシチューはおいしいね!

(蔵書:中央図書館、北、南)

10月の推薦本

・「とけいのあおくん」 文:エリザベス・ロバーツ 訳:灰島かり 絵:殿内真帆(東京 福音館書店)

おすすめコメント:ちっちゃい目覚まし時計のあおくん。

男の子がお母さんと一緒に朝起きるのが苦手なお父さんへのお誕生日プレゼントにと買っていきます。

あおくんはうまくベルを鳴らせるか、初仕事にドキドキしながら朝を迎え…。

自分のドキドキしたときのことを思い出します。シンプルでしゃれた色合いの絵が印象的です。

(蔵書:中央図書館、北、南)

・「ポヨンポヨンだいおうのおはなし」 作:ヘルメ・ハイネ 訳:ふしみみさを(東京 朝北社)

おすすめコメント:どうしてもねむれなかったおうさま、ある晩ベッドでとびはねてみたら、すっきり!

それをこっそりみていた大臣が…。

ベッドでとびはねているおうさまの楽しそうな表情まで見えてきそうな絵本です。

「王さまはとびはねるのがすき」(訳:松代洋一 佑学社)を再刊したものです。

(蔵書:中央図書館、北、西)

9月の推薦本

・「からすたろう」文・絵:やしまたろう(東京 偕成社)

おすすめコメント:戦前の日本。皆となじめないしじめられこの少年が、最後の学芸会でからすのなきまねを披露し、皆を驚嘆させる。。

先生は、少年が毎日何時間もかけて学校に通っていることを伝える。。

先生の温かいまなざしと深い愛情、子供達の素直な心がしみじみと感じられる。。

渡米、帰化した画家自身の恩師二人の思い出を合わせて作った絵本である。

(蔵書:西図書館)

・「おいしいおとなあに？」著:さいとうしのぶ(東京 あかね書房)

おすすめコメント:動物達がうどんやチャーハンなど食べている様子が、見開き毎にユーモラスに描かれます。

さあ今日は何を食べようかな、そんな気持ちになる絵本です。

(蔵書:中央図書館、北、西)

8月の推薦本

・「おぼけのがっこうへきてください」著:さくらともこ 絵:いもとようこ(岩崎書店)

おすすめコメント:引っ込み思案で運動も苦手、みんなから「よわし君」と呼ばれてしまっている「つよし君」。

おぼけのがっこうの校長先生からぜひおぼけのこども達のお手本に、と頼まれます。

つよし君は、自分の弱い面を認められたことで、新しい力がわいてきて、成長するのです。

いもとようこのあたたかい絵がぴったりあって、すてきです。

(蔵書:中央図書館、西、南)

・「おへそのあな」作:長谷川義史(神戸 bl 出版)

おすすめコメント:赤ちゃんがお母さんのおへそのあなから外の様子を見ています。

聞いています。いのち、家族のつながりを温かく感じるすることができます。友達になるってすごいことなんだね。

(蔵書:中央図書館、北、西、南)

・「狐」著:新美南吉 画:長野ヒネ子(偕成社)

おすすめコメント:子どもたちだけで出かけたお祭りの夜に不思議なことが起こります。

お母さんの愛が、不安にかられた息子を温かく包みます。こんなお母さんでありたい、と勇気のでる一冊。

(蔵書:中央図書館、西、南)

6月の推薦本

・「はしれ江/電 ひかいのなかへ」著:金子章 絵:渡辺有一(PHP 研究所)

おすすめコメント:そのままの自分でいいんだよ。あなたがいること、それがみんなを幸せにしているのかな。

(蔵書:中央図書館、西)

・「あのときすきになったよ」 作:薫くみこ 絵:飯野和好(教育画劇)

おすすめコメント:仲良くなかった子なのに、あれ?いつのまにか大事な友達になってる!
友達になるってすごいことなんだね。

(蔵書:中央図書館、北、西、南)

5月の推薦本

・「はらぺこあおむし」 著:エリック・カール 訳:もりひさし(偕成社)

おすすめコメント:山盛りのごちそう!食べたーい!!

ちっぽけなあおむしだけど、おつきさまやおひさまが見守ってくれているよ。

とびだすしかけ絵本もたのしいよ。

(蔵書:中央図書館、北、西、南)

・「おおきな木」 作・絵:シェル・シルヴァスタイン 訳:本田錦一郎(篠崎書林)

おすすめコメント:どんな夢も応援してくれる。そして、きっといつも待っててくれるよ。一緒にいると幸せだから。

(蔵書:中央図書館、北、西、南)

4月の推薦本

・「100 まんびきのねこ」 著:ワンダ・ガアグ 訳:石井桃子(福音館書店)

おすすめコメント:争うことの愚かさ、縁というものの深さを感じられます。90年近く前のアメリカの絵本です。

(蔵書:中央図書館、北、西、南)

・「さかな」ぴきなまのまま」 著:さのようこ(フレーベル館)

おすすめコメント:ともだちが心にそうっと寄り添ってくれるあたたかさを感じることができる一冊です。

(蔵書:中央図書館、西、南)

3月の推薦本

・「わたしの手はおだやかです」 著:アマンダ・ハーン 画:マリナ・サゴナ 訳:谷川俊太郎(ソニー・マガジンス)

おすすめコメント:「手伝い」「手を抜く」…手は使い方ひとつで良くも悪くもなる。

カラフルな絵とシンプルな言葉で、深く心に染みます。

(蔵書:中央図書館)

・「お〜い、雲よ」 著:長倉洋海(東京 岩崎書店)

おすすめコメント:世界の紛争地を見てきた写真家が東北の子どもたちの生きる姿を写した写真絵本。

つらい時は顔をあげてみようという強いメッセージが伝わってくる。

(蔵書:西図書館)

2月の推薦本

・「牧場のいのち」文：立松和平 絵：山中桃子（東京 くもん出版）

おすすめコメント：牧場は命の学校だ。牧場の仕事を通して命の意味を考える。

立松和平「いのちの絵本シリーズ」の1冊。

（蔵書：中央図書館）

・「彼の手は語りつく」著：パトリア・ポラッコ 訳：千葉茂樹（あすなろ書房）

おすすめコメント：アメリカの南北戦争で本当にあった、出会いと友情、別れを描いた物語。

「たとえ奴隷でも、自分のほんとうの主人は、自分以外にはいない…」いのちのバトンとともに今日に伝えられた。

（蔵書：中央図書館、南）

1月の推薦本

・「ゆずちゃん」作：肥田美代子 絵：石倉欣二（ポプラ社）

おすすめコメント：ゆずちゃんの夢は風船屋さんになって世界中の子供に風船を配る事。

そんなゆずちゃんは阪神大震災で死んでしまった…友達皆でお別れに風船を飛ばした。

ゆずちゃん空の上から風船が見えるかい。

（蔵書：中央図書館、北、西、南）

・「スーホの白い馬」再話：大塚勇三 絵：赤羽末吉（福音館書店）

おすすめコメント：お互いを大切に思う気持ち、それは時を越え、形を変えても、永遠に消えることなく在り続けます。

モンゴルの大草原の、少年と馬のお話です。

（蔵書：中央図書館、北、西、南）